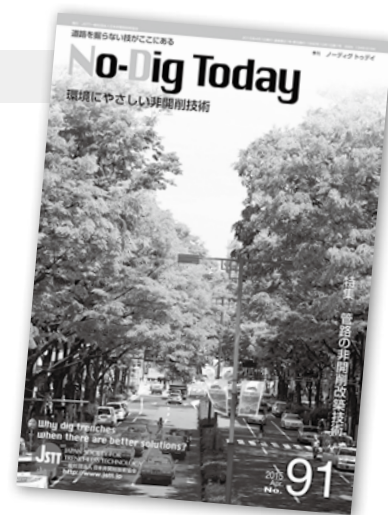




黒瀬 亜樹
KUROSE Aki
㈱イセキ開発工機
国際部

昨 年末ジャカルタへ行った折、主要道の渋滞
常態化を目の当たりにし、改めて社会イン
フラについて考えさせられました。日本では老朽
化が問題視される中、新興国であるインドネシア
では、様々な場所でインフラ整備が急速に進んで
おり、外から日本を見る良い機会となりました。

私は、普段デスクワークをメインとしておりま
す。そのため、技術的なことを学ぶ機会はありませんが、帰国後、No-Dig Todayの過去発
行分・第90号・第91号を読み、また関連ニュー

ス等にも目を向けるようになりました。なかでも、
今回の特集「管路の非開削改築技術」は、各工法
の概要や施工事例、また今後の展望等について綴
られており、大変勉強になりました。

小さな一歩ではありますが、いつの日か第91
号編集後記に記されておりました「推進・チーム
日本」の一員になれるよう努めて参りたいと思い
ます。



渡邊 康章
WATANABE Yasuyuki
NTTインフラネット(株)
事業開発本部 事業計画部門
アラミド補強担当

弊 社は、NTTグループが保有する情報通信
用地下設備のマネジメント業務を一元的に
行っています。昨今大きく取り上げられている「老
朽劣化が進む社会インフラの維持管理・永続化」
については、現在重点施策の一つとして取り組ん
でいます。

そのような背景もあり、今回特集された『管路
の非開削改築技術』は、大変興味深く拝見しまし
た。地下管路の新築工事及び補修工事は、地下埋
設物が輻輳し、近隣的环境条件などから開削工法

が困難な状況が数多くあります。今後ますます非
開削改築技術により課題が解決され、これまで以
上に多くの工事で取り入れられることに期待して
おり、活用したいと感じました。

最後に技術者・技能者不足も問題視される中、
毎回掲載される特集を拝読し、技術の進化、改善
改良に尽力されている技術者の姿に力もらって
います。私も「社会インフラの課題解決への重要
な役割を担っている」自覚を新たに、日々の業務
に励みたい。



津崎 将人
TSUZAKI Masahito
大成機工(株)
技術部
技術サービスグループ

本 号総論で(公社)日本推進技術協会石川専務
理事(本誌編集委員長)が述べられている
通り、都市機能を支え続けるために経年劣化が進
む地中管路(上下水道、電力、ガス等)の改築、
敷設替えは必須であり、地中管路の改築、敷設替
えには、道路の掘削や土留め工の設置、大型重機
による振動、騒音、他の地下埋設物の保護など様々
な制約があります。その中で、対象管路沿線のほ
とんどの区間で道路上及び他の地下埋設物に触る
ことなく老朽管を改築、敷設替えできる非開削工

法はまさにスマートな技術といえます。

非開削技術は、近年では特に交通量の多い国
道・県道部や軌道下など開削工事が困難な場所
における非開削工法に用いられ、改築、敷設替え(管
内カメラ調査含む)の実績が増加しております。
非開削技術を保有する企業の一員として、今後も
国土強靱化、都市機能再構築に貢献できるよう取
組んで参ります。